

起案No.	2017004
起案者	役員会
起案名	ティグラ規制強化への検証準備情報
1,起案レベル	車両規則改定の検証準備情報
2,案件抽出日	2017年
3,誰が	選手会役員
4,どこで	選手会役員打ち合わせ
5,対象レース、クラス	FP4、FP4-ST
6,対象車種	ティグラ
7,内容詳細	<p>・ティグラのストレートスピード抑制でイコールコンディション強化</p> <p>背景： 2015年よりティグラへは特別規定としてスロットルボディーを28n基準とし抑制したがまだ優位な状況である。 参加しやすいイメージの保持、参加台数比から車種移行は現実的で無く、流通の問題等の理由からコスト増が予想される。</p> <p>課題： ティグラと比較した場合、シグナスX、RACING125はエンジンパワーに劣り不利である。</p> <p>提案： ライダーの体重を区分けにて段階的な規制をおこなう。</p> <p>規定項目`例`</p> <p>① ～60キロ =スロットルボディー26パイ規制+ECUノーマル</p> <p>② 60～70キロ =スロットルボディー28パイ規制+ECUノーマル</p> <p>③ 70～キロ =スロットルボディー28パイ規制</p> <p>※装備品込みの体重を設定し、市販体重計にて測定</p> <p>※上記規制内容の根拠は現在無し、選手会にて検証予定、その他エアクリーナーカバーでの制限等。</p> <p>指摘1： ウェイト管理項目について主催側の運営はどうするのか？</p> <p>対応1： 受付時に自己申告、「通常の分解車検と同等の扱い」指摘あれば重量測定と車検</p>
8,考えられる良い影響	・イコールコンディションにより参加者の満足度向上、低コストイメージの保持
9,考えられる悪い影響	・既存ティグラ所有者の反発（前年度チャンプの佐藤氏とチーム長である斉藤役員の協力確約）
10,主催団体との連携	・特に無し
11,仮決定内容の取扱	・検証後正式起案、即時適応、規定改定までは問い合わせにて個別開示 (主催者への個別の承認は必要)
その他	※スロットルボディー変更は燃調不良から走行に支障をきたす可能性があり危険との指摘から当起案は破棄